

ご寄付のお願い

教育研究協力資金

本学では、教育・研究のための環境整備などを目的として、継続的に皆様からのご支援を受け付けております。医学部開設から10年が経ち、実習設備等の陳腐化が進み、更新が必要となっております。ご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。

個人での寄付申し込み方法

インターネット

クレジットカード決済、コンビニ決済、Pay-easy決済よりお選びいただけます。下記二次元コードまたはURLよりお手続きください。

[教育研究協力資金]
https://www.tohoku-mpu.ac.jp/
about/donation/



銀行振込

振込用紙を送付いたしますので以下の問い合わせ先までご連絡ください。

[問い合わせ先] TEL:022-234-4181(代表)
財務部財務課 E-mail:kifukin@tohoku-mpu.ac.jp

第8回
ホームカミングデイのお知らせ

小松島ホームカミングデイ

日時 令和7年10月12日(日)11:00～13:00

- 講演会(母校・中央棟2階 2A講義室) 11:00～11:40
- 昼食会(学生ホール3階 カフェテリア) 11:45～13:00
- 福室キャンパスツアー 13:30～14:30

※13:00小松島キャンパス出発

福室ホームカミングデイ

日時 令和7年10月12日(日)15:00～17:30

- 講演会(プラタナスホール) 15:00～16:00
- 懇親会(教育研究棟1階 食堂) 16:00～17:30

会費
無料

参加ご希望の方は、9月24日(水)までに
同窓会宛に電話・FAXまたはメールにて
ご連絡下さいますようお願い申し上げます。

[問
合
わ
せ
先]

[同窓会事務局]
担当:白石
電話:022-234-4181(代表)
FAX:022-234-4548
E-mail:dosokai2@tohoku-mpu.ac.jp

クラウド
ファンディング
を活用した『瞑想の森再生プロジェクト』
始動!

本学のシンボルである『瞑想の松』周辺の緑地帯『瞑想の森』は、平成26年頃から「ナラ枯れ」という伝染病が発生しており、被害の拡大を防ぐために現在までに200本を超える被害木が伐採されています。本学では、失われたかつての景観を取り戻し、更なる枯木・倒木などの被害を食い止めるためにクラウドファンディングを活用した『瞑想の森再生プロジェクト』を始動しました。

今後、特設サイトにおいてプロジェクトの最新情報を発信してまいります。学生と教職員が協力して取り組みますので、実施の際には皆さまからの温かいご支援をお願い申し上げます。

特設サイトはこちら ▶



読者アンケートのお願い

「東北医科薬科大学報 Tmpu family」に関する皆さまのご意見・ご感想を募集いたします。頂いたご意見は今後の誌面作りの参考にさせていただきます。なお、アンケートにご協力いただいた方の中から抽選で10名さまに東北医科薬科大学オリジナルグッズをプレゼントいたします!

※プレゼント当選者の発表は賞品の
発送をもって代えさせていただきます。
※画像はイメージです

応募締切 令和7年10月末日

右記二次元コードから
アンケートにご回答ください



東北医科薬科大学 広報委員会

〒981-8558 仙台市青葉区小松島4丁目4番1号
TEL:022(234)4181(代) FAX:022(275)2383
https://www.tohoku-mpu.ac.jp/

X



Facebook



YouTube



LINE



東北医科薬科大学
TOHOKU MEDICAL AND PHARMACEUTICAL UNIVERSITY



東北医科薬科大学報
family

■特集

- 01 薬学部のキャリア支援
- 03 研究室紹介 医学部微生物学教室

■NEWS

- 05 大学&学生支援に関するお知らせ

■トピック&注目情報

- 07 医学部
- 09 薬学部
- 11 大学院
- 12 附属病院
- 13 法人
- 14 受賞・部活動報告
- 17 学生広報スタッフによる
スペシャルインタビュー
- 19 お知らせ

特集

Career Support

薬学部のキャリア支援

本学の薬学部には薬学科(6年制)と生命薬科学科(4年制)があります。薬学科は病院や薬局に就職して薬剤師として働く卒業生が多いですが、製薬会社や治験会社に就職したり、公務員として活躍する卒業生もいます。一方、生命薬科学科は、大学院に進み研究に励んだり、薬学科と同じく、製薬会社や治験会社に就職する卒業生も。このように、薬学部の学生が卒業後に活躍できるフィールドは多岐にわたるため、学生一人ひとりが納得した進路を選択できるようにサポートしています。

POINT

01

早期からキャリアを意識できる

薬学科は4年生、生命薬科学科は2年生の4月には自分の視野を広げるためのガイダンスを実施します。特に、薬学科では病院や薬局の「薬剤師」だけでなく、資格を活かせるフィールドを知る機会としています。視野を広げ、やりたい仕事だけではなく、自分に向いているかどうかという観点でも就職先を選べるような支援を心がけています。

POINT

02

学生の視野を広げる豊富な支援行事

薬学部では、なんと年間45件ものキャリア・就職支援行事を実施。自己分析やエントリーシートの作成といった基礎的な講座や企業の人事担当者・卒業生を招いた業界研究セミナーなどを幅広く展開。学生の個性や適性に寄り添い、将来の夢を切り拓くサポートにあたります。

薬学部卒業生のお仕事密着動画を公開中！

https://www.tohoku-mpu.ac.jp/yakugakubu_mirai/



薬学部生の

就活SCHEDULE

薬学科5年生、生命薬科学科3年生は本格的な就職活動開始(3月)に向けて、前年度から学内支援行事に参加してキャリアを考え、4月頃から準備を始める傾向にあります。

行事予定(抜粋)

薬学科

生命薬科学科

両学科共通

2年次	4月	●キャリアガイダンス
	9月	●キャリア支援講座I(全15回)
	11月	●業界・仕事研究セミナー ●病院薬剤師魅力発見セミナー(卒業生講演予定) ●製薬会社魅力発見セミナー(卒業生講演予定) ●公務員魅力発見セミナー(卒業生講演予定) ●製薬会社内定者との懇談会
4～5年次	4月	●就職ガイダンス・インターンシップ説明会 ●職務適性テスト
	5月	●キャリア支援講座II(全4回)
	6月	●職務適性テストフォローアップ講座 ●業界説明会 (製薬・MR・CRO・SMO、医薬品卸・MS、化粧品・技術職、製薬・品質管理、検査・技術職)
	7月	●業界説明会(公務員、薬局、ドラッグストア)
	8月	●インターンシップ事前講習会 ●インターンシップ
	9月	●就職マナー講座I・II(着こなし講座) ●自己分析・履歴書・エントリーシート書き方講座
	10月	●履歴書・エントリーシートフォローアップ講座 ●学内公務員講座開講(～翌年.7):有料 ●就職マナー講座III(就活メイク講座) ●就職活動体験発表会 ●適性検査R-CAPweb受検(10/20～10/31) ●面接試験対策講習会①
	11月	●業界・仕事研究セミナー ●病院薬剤師魅力発見セミナー(卒業生講演予定) ●就職活動直前講座(自己分析) ●SPI3解説講座 ●面接試験対策講習会② ●製薬会社魅力発見セミナー(卒業生講演予定) ●公務員魅力発見セミナー(卒業生講演予定) ●製薬会社内定者との懇談会 ●インターンシップ事後講習会
	12月	●キャリア支援講座講演会(卒業生講演) ●進路調査書web登録 ●R-CAP解説講義 ●進路面談
4年次	1月	●就職ガイダンス～就活直前編～ ●就職ガイダンス、インターンシップ説明会
	2月	●就職ガイダンス～就活直前編～ ●就職活動直前講座(ES・面接) ●受験飯でパフォーマンスの土台を作ろう！ ●進路調査書web登録
	3月	●合同就職説明会
	7月	●就職希望者に対する個人面談

プロの視点から
キャリア形成をサポート！

薬学部 キャリア支援センター



学生一人ひとりへのサポート

自己分析や企業研究の相談など、進路の全般に関してアドバイスを受けられます。また、履歴書やエントリーシートの添削指導、実践的な面接練習なども行っているので気軽にご相談ください。



蓄積された 就活レポート

本学の薬学部は北海道・東北地区では最も多くの学生数を誇ります。キャリア支援センターでは、多くの卒業生が残した就活レポートを閲覧することができますので、自身の就職活動にきっと役立つ情報が得られます。



業界魅力発見 セミナー

業界で活躍する卒業生を講師として招き、その業界を選んだ理由や仕事のやりがいなどを伺います。パネルディスカッションもあり、講師と学生が双方向で対話することができますように昨年度から新たに開始した取り組みです。



本学独自の 合同就職説明会

毎年3月に学内で開催する合同就職説明会には約260社の事業所が参加し、薬系大学としては国内有数の規模を誇ります。業界事情やさまざまな企業の取り組みを知り、自身の将来をより具体的に描ける機会を提供しています。



薬学部令和6年度進路実績(抜粋)

薬学科

[製薬会社]
●ファイザー(株)
●第一三共(株)
●仙台小林製薬(株)

[病院]
●(独)国立病院機構 北海道東北グループ
●東北大学病院
●東北医科薬科大学病院
●弘前大学医学部附属病院
●岩手県医療局
●いわき市医療センター
●山形市立病院済生館
●秋田大学医学部附属病院
●茨城県立こども病院 他

[ドラッグストア]
●イオングループ
●(株)ツルハ 他

[大学院進学]
●東北医科薬科大学大学院
薬学研究科薬学専攻博士課程

[公務員]
●防衛装備庁
●岩手県職員
●青森県職員
●山形県職員

生命薬科学科

[製薬会社]
●キッセイ薬品工業(株)
●千寿製薬(株)
●日新製薬(株)
●ニプロファーマ(株)
●浜理P F S T(株)
●扶桑薬品工業(株)
●ペーリンガーインゲルハイム製薬(株)
●Meiji Seika ファルマ(株) 他

[試験研究機関]
●(株)LSIメディアエンス
●(株)保健科学研究所

[大学院進学]
●東北医科薬科大学大学院
薬学研究科薬科学専攻博士課程前期課程
●大阪公立大学大学院
医学研究科医科学専攻修士課程

[化学工業]
●ケミプロ化成(株)
●東邦アセチレン(株)

内定者の声



エーザイ株式会社 内定 薬学部薬学科6年 佐藤 晴さん

私は薬剤師になりたいと思い大学に入学しましたが、実務実習で新薬勉強会に参加した際、MRが的確に説明する姿に感銘を受け、医療現場と製薬会社の架け橋として患者様のQOL向上に貢献したいと考え、MRを志望しました。就職活動では、印象に残る自己PRができるよう最も力を注ぎました。自己分析・他己分析を踏まえて、どの質問に対しても、自分のことを伝える表現方法を磨いたことで面接では緊張せずに臨めました。キャリア支援課では面接練習やES添削だけでなく、些細な悩み事にも親身に相談に乗っていただき、あらゆるサポートを受けて内定獲得につなげることができました。

Research will move you! 微生物学教室

interviewee

神田 輝 教授(医学)
Teru Kanda

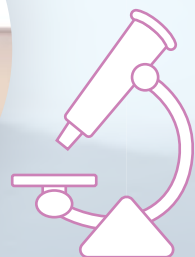
研究は急に進むこともあれば
停滞することもある。
大事なのは、科学を正しい方向に
一歩でも進めること



Q 研究keyword ● 腫瘍ウイルス ● EBウイルス ● ヒトT細胞白血病ウイルス ● 分子生物学

profile

東北大学卒業後、4年間、外科医としてさまざまな疾患の治療に従事したのち、研究の道を志して東北大学大学院に入学。
その後、米国のソーク生物学研究所、北海道大学遺伝子病制御研究所、愛知県がんセンター研究所を経て平成28年4月より本学の医学部教授として微生物学の教育・研究に従事。趣味はプロ野球観戦、読書、音楽鑑賞など。神奈川県・横浜市出身。



Q 微生物学研究を始めたきっかけは なんですか？

がんを理解したいというつよい思いがウイルス研究へと
つながりました

医学部を卒業して外科へと進んだのは、がんという病気が
どうやって起きて、どうやって進行していくのかを知りたい
という思いからでした。
外科医として4年間働いた後は、がん研究を志して大学院に入学
しました。その後、アメリカのサンディエゴにあるソーク生物
学研究所に留学し、がんの染色体研究を行う中で、腫瘍ウイ
ルスの一種であるEBウイルスと出会いました。帰国後本格的
にEBウイルスの研究を始め、現在もその研究を続けています。

EBウイルスとは？

エプスタイン(Epstein)とバー(Barr)が発見したことで、二人の
名前に因んでEBウイルスと呼ばれています。ヒトに感染するヘルペ
スウイルスの一種で世界中に蔓延しており、成人になるまで約95%
の人が感染します。感染しても、通常は無症状または一時的に軽度
な症状を示すだけですが、時に伝染性単核症、リンパ腫や上咽頭
がんなどの悪性腫瘍や、さまざまな重篤な疾患の原因となります。

Q 研究が目指す場所とは？

基礎研究の裾野を広げることで治療法発見への道が開けます

EBウイルスはさまざまな病気を引き起こします。私たちは、ウイ
ルス学、分子生物学、細胞生物学などの手法を用いてウイルス本来
の機能を理解し、EBウイルス関連疾患の病態解明につなげていく
ことを目指しています。しかし、EBウイルスには80個もの遺伝子
があり、すべてのウイルス遺伝子の機能を理解するのは容易では
ありません。

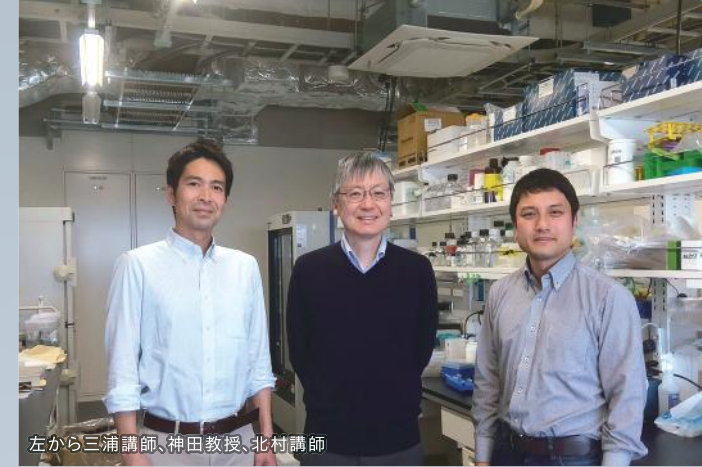
自分たちの研究が、回りまわって難病と言われるような病気の診断、
治療法の開発につながれば望ましいですが、応用を目指した研究が
いきなりうまくいくことはめったにありません。
ウイルス研究に限りませんが、多くの研究者が地道な基礎的研究を
続けているうちに、研究者本人が考えてもみなかった応用への道が
開けたということはよくあります。研究にゴールはありませんが、もし
仮に治療法の発見をゴールとした場合、そこに至る道を開くた
めの研究の裾野は広くなければいけません。

大事なのは科学を正しい方向に一歩でも進めることで、その一歩を、
次の誰かがまた一歩進めてくれる、そうした歩みが応用につながって
いくのだと考えています。

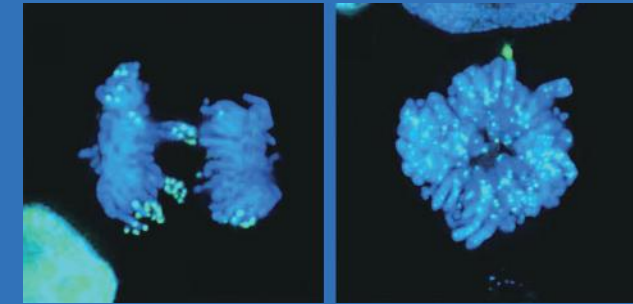


学生に伝えたいこと

ヒトのがんについて今では多くのことが解明されていますが、
それは1960年代から1980年代に多くの研究者たちが動物
の腫瘍ウイルス学研究において大きな貢献をしたおかげ
です。私はその時代に活躍した研究者たちと直接交流できた
最後の世代です。彼らの功績や私自身の体験を未来に語り
継がなければいけないという使命を感じています。微生物学
は、臨床医にとって極めて重要な感染症学の基礎となる学問
です。ただ単に知識を伝えるだけでなく、微生物学研究の
流れについて理解することの大切さも伝えていきたいですね。



左から三浦講師、神田教授、北村講師



染色体(青色)に付着した微小染色体(左)とEBウイルスゲノム(右)



医学部の研究室が集まる福室キャンパス

Q 微生物学を学ぶ面白さについて

人間の常識では推し測れない存在だからこそ
研究し続けます

細菌もウイルスも、微生物は私たち人類が地球上に出現
するよりずっと以前から存在しています。
細菌が生きていくためのエネルギーを作る仕組みは、
ヒトと比べて多様性に富んでいて、さまざまな環境で生き
延びます。一方、ウイルスは細胞の外では核酸分子がタン
パク質の殻につつまれた「物質」に過ぎないのに、いった
ん細胞の中に入ると「生き物」のごとく振る舞い始める
という、人智を超えた存在です。微生物学の面白さ
は、この人智を超えた微生物の驚異的な能力を学ぶこ
とですね。

大学&学生支援に関するお知らせ

■ さくらサイエンスプログラムを実施

令和7年1月、モンゴル薬科学大学から大学生・大学院生・若手職員12名を招き「薬学交流」をテーマとしたさくらサイエンスプログラム※科学技術体験コースを実施しました。本学薬学部で学部生や大学院生が普段受けている先進的な教育プログラムや、大学病院薬剤部での薬剤師業務、病院と薬学部・医学部の連携、そして実験室で行われているユニークな科学研究を紹介し、様々な項目に挑戦・体験していただきました。

※国立研究開発法人科学技術振興機構による国際的な青少年のサイエンス交流を行うプログラム



■ 公益社団法人仙台市薬剤師会との包括連携協定を締結

学校法人東北医科薬科大学と公益社団法人仙台市薬剤師会は、地域に根ざした薬剤師養成機関および薬剤師職能機関として発展し、これまで以上に地域社会の健康・福祉に貢献することを目的に、包括的な連携協定を締結し、令和7年2月5日(水)に東北医科薬科大学小松島キャンパスで締結式を行いました。今後、地域住民との交流や薬剤師業務の理解促進に向けて、市民講座や健康相談をはじめとする各種イベントの共同開催を計画しています。



■ 東北医科薬科大学医学部設置10周年(創立87周年)に向けて

令和8年4月1日(水)に医学部が設置10周年を迎えます。当時、37年ぶりに設置された医学部が、無事、10年目を迎えることになりましたのも皆様のご支援の賜物と感謝いたします。東北地方の医療に貢献することを使命とする本学は、この節目に、同窓生、保護者及び地域との連携を更に強化させる活動を行うとともに、社会の要請に応えるよう、進化する大学として、今後も地域のステークホルダーの方々とともに歩み、地域への情報発信を続けてまいります。



医学部設置10周年記念ロゴマーク

■ 学校法人東北学院との包括連携協定を締結

学校法人東北医科薬科大学と学校法人東北学院は、両法人の強みを生かした人材育成を通じ地域社会へ貢献することを目的に、包括的な連携協定を締結し、令和7年1月31日(金)に東北学院大学五橋キャンパスで調印式を行いました。この協定を機に両法人が持つ豊富な人的・知的資源をより一層活用することで、教育・研究活動をさらに推進し、地域社会の発展に貢献できるよう努めてまいります。



■ 医学部・薬学部合同の体験学習を実施(ハンディキャップ体験)

医学科・薬学科の1年生が合同で行うハンディキャップ体験では、患者とその家族の気持ちや生活を理解するという、医療人に必要な心構えを身に付けることを目的の一つとしています。視覚障がい疑似体験を行った際には、アイマスクを装着し点字ブロックと白杖をたよりに障害物のあるコースを歩きました。何も見えない恐怖から、なかなか歩を進められない様子で、ハンディキャップを抱える方が感じる不自由さを体感していました。



■ 二松会からの図書贈与御礼

毎年、二松会から本学図書館に図書購入費の御支援をいただいております。昨年12月以降、次の図書を購入しましたのでご報告いたします。二松会・保護者の皆様へ心より御礼申し上げます。

【令和6年12月～令和7年3月末までの購入分】
芥川賞受賞作、直木賞受賞作、本屋大賞受賞作など。

計62種 金額221,298円(年間 合計95種 金額500,000円)

■ 保健管理センターの利用について(小松島・福室キャンパス)

保健管理センターでは、学生の皆さまが心身ともに健康に過ごせるようサポートしています。キャンパス内での急な体調不良やケガの際には、応急的な対応を行います。また、持病の自己管理に関する相談や、気分の落ち込みなど日常生活でのちょっとした不安についても気軽にご相談ください。なお、保健管理センターは診療所ではないため、診察やお薬の処方はありません。学医、臨床心理士(公認心理師)、看護師が必要に応じて対応します。一部の相談については予約制となっておりますので、事前に来室またはお電話での予約をお願いいたします。皆さまが安心して相談できるよう、プライバシーに十分配慮して対応いたします。

保健管理センター 連絡先	小松島キャンパス	直通電話 022-727-0054
	福室キャンパス	直通電話 022-290-8865

体調不良やケガなどの急病 看護師による相談	平日 月曜～金曜 8:30～17:00(随時)
臨床心理士(公認心理師)による相談	平日(予約制)
学医による相談	平日(予約制)



■ 奨学金について

経済的な理由により修学が困難な学生を支援する制度として、各種奨学金を紹介しています。本学では、奨学金に関する情報をホームページに掲載しておりますので、ぜひご覧ください。ご不明な点がございましたら、奨学金担当窓口までお問い合わせください。

■ 支援室について

障がいや疾患のある学生が、その種別や程度に関わらず、他の学生と等しく教育を受けることができるよう、支援室が学内関連部署と連携しサポートにあたっています。配慮までの流れや配慮例については、本学ホームページ(サポート体制)をご覧ください。教育機関として適切な配慮を実施するために、学生の要望や教育の本質などを踏まえて慎重に検討を行っています。支援の実施までには時間が必要ですので、何らかの困難が想定される場合は早めに支援室までご相談ください。

■ 学生相談室について

小松島・福室の両キャンパスでは毎週月曜日に「学生相談室」を開室しています。医学部、薬学部、教養教育センターの教員が相談員となり、勉強や友人、将来のことなど様々な悩みについて一緒に解決方法を考えます。また、もう少し専門的な助言等が必要な場合には保健管理センターやその他の部署などを紹介します。相談は事前予約制です。予約方法や相談担当者については、本学ホームページ掲載の「学生相談室だより」をご覧ください。

学生相談室開室情報	
小松島キャンパス	福室キャンパス
月曜日16:00～18:00 (ひとり1時間以内)	月曜日17:30～18:30 (ひとり1時間以内)
〔場所〕 中央棟1階 学生相談室	〔場所〕 教育研究棟1階 学生相談室



詳しくは「奨学金案内」をご覧ください
https://www.tohoku-mpu.ac.jp/admission/ad_scholarship/



医学部長挨拶

医学部長 柴田 近



東北地方の明日の医療を支える人材を育てます

平成23年の東日本大震災からの復興や東北地方の医師不足対策として、平成28年に前身である東北薬科大学に医学部が設置されて東北医科薬科大学医学部が誕生し、令和7年は医学部設置10年目の節目の年となります。本医学部の使命である、東北地方の地域医療、災害医療を担う医師の育成、を達成するために、本学では修学資金・地域枠制度、特徴ある地域医療教育、卒後のキャリア支援体制、の3つの仕組みを取り入れています。令和4年3月に本医学部一期生が卒業して以降、350名以上の卒業生の7割近くが東北地方の病院で活躍しており、使命の全うに向けて前進中です。本医学部では、今後も東北地方の医療を支える人材を育て、東北地方の地域医療を支援していきます。

白菊会について

令和7年5月21日(水)に、仙台国際センターにおいて、宮城県内における献体篤志家団体である東北大学白菊会の第48回総会が執り行われました。本年度総会は会員約270名が出席し、成願者への黙祷が捧げられました。来賓挨拶では本学の柴田近医学部長より、会員の篤志により医学教育が支えられていることに対し謝意が伝えられました。また、2年次に優秀な成績を修めた学生を表彰する「鹿野記念奨学奨励賞(鹿野賞)」と、5年次に優秀な成績を修めた学生を表彰する「笠原賞」の授賞式が行われ、本学からは医学部3年の青柳花穂さんと田崎健人さんが鹿野賞を、医学部6年の崎本有梨亜さんが笠原賞を受賞しました。会の後半では、東北大学名誉教授の荒井啓行氏より、「超高齢社会における認知症診療－東北大学病院における30年の経験から－」と題した記念講演が行われました。

令和6年度医学部ベストティーチャー賞・グッドティーチャー賞受賞者決定

医学部では令和6年度より、カリキュラム評価委員会で実施している授業アンケートで高評価であった科目に「ベスト・グッドティーチャー賞」を授与する制度を設け、令和7年5月27日(火)に代表して科目責任者に対し表彰式を挙行了しました。

[1年次]

- ベストティーチャー賞
「行動心理学」森本 幸子 准教授
- グッドティーチャー賞
「科学ライティング演習」有川 智博 准教授
「医化学」森口 尚 教授
「医学概論」高木 徹也 教授

[2年次]

- ベストティーチャー賞
「解剖学」上条 桂樹 教授
- グッドティーチャー賞
「生理学」河合 佳子 教授
「薬理学」岡村 信行 教授

[3年次]

- グッドティーチャー賞
「救急医療学」遠藤 智之 教授
「医学英語Ⅴ」大原 貴裕 准教授
「法医学」高木 徹也 教授
※ベストティーチャー賞は授業アンケートの回収率が規定に達せず選定せず

[4年次]

- ベストティーチャー賞
「臨床分子遺伝学」下平 秀樹 教授
- グッドティーチャー賞
「臨床薬理学」岡村 信行 教授

第119回医師国家試験結果について

令和7年2月8日(土)・9日(日)に第119回医師国家試験が実施されました。本学の合格率は91.7%(96名中88名合格、新卒は91名中84名合格)で、本学医学部創設以来、初めて全国平均(92.3%)を下回る結果となりました。東北地方へ一人でも多くの医師を輩出するという大きな使命を十分に果たすことができず、学生・保護者・教職員一同、非常に残念に思っております。今年の失敗を厳粛に受け止め、既に来年に向けた新たな取り組みを開始しています。今後も教職員が一丸となって学生のサポートに努めてまいりますので、引き続き温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

共用試験(CBT・OSCE)について

4年次後期から始まる臨床実習に参加するためにはCBT(コンピュータ試験)と臨床実習前OSCEの2種類に合格する必要がある、CBTは医学知識を評価する試験で、臨床実習前OSCEは診察や対応など臨床技能を実技で評価します。CBTと臨床実習前OSCEは一昨年度から国家試験に準じた試験として設定されました。6年次には臨床実習を経て医学部の卒業を許容できるレベルの臨床能力を習得していることを評価する臨床実習後OSCEに合格する必要があります。



進級基準

医学部の進級判定基準については二次元コードからご覧いただくことができます。なお、進級基準は入学年度によって異なりますのでご注意ください。各規則の詳細は学生本人に配布している学生便覧をご確認ください。



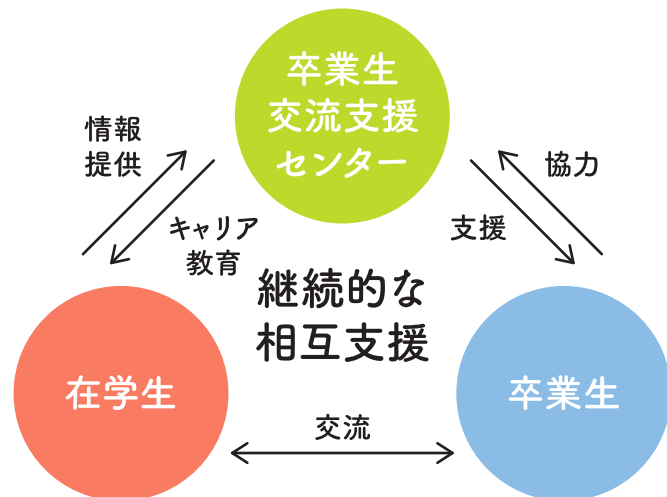
進級基準

卒業生の臨床研修について

医学部は開設以来「地域医療の多様なニーズに対応できる幅広い診療能力を持った医師を育成し、東北地方の地域医療の未来を支えること」を使命に掲げ、令和7年3月には第4期卒業生を輩出いたしました。現在、第3期卒業生の73%、第4期卒業生の70%が東北地方で臨床研修を行っております。さらに臨床研修後は、東北の地域医療に貢献しようとする志をもった修学資金医師も東北地方で勤務することとなるため、より多くの卒業生が東北地方で活躍してくれることと期待しております。今後も卒業生が医師としての職責を継続して果たしていけるよう、関係機関と協力しながら支援してまいります。

医学部卒業生交流支援センター

「医学部卒業生交流支援センター」では、卒業生や在学生へのキャリア形成支援を行っています。卒業生に対しては、進路に関する相談対応や、卒業生同士の交流機会の提供などを通じて、医師として継続的に成長できるようサポートしています。悩みや不安が生じた際には、ぜひ当センターへご相談ください。在学生に対しては、1年次からのキャリアガイダンス、附属病院の各診療科と連携した診療科説明会、病院見学や就職活動の支援、個別面談などを実施しています。早い段階から将来を見据えた準備ができるよう、一人ひとりに寄り添ったきめ細やかな支援を行っています。また、卒業生が病院見学の心得、マッチングや面接対策、国家試験にむけた勉強法などを在学生に伝えるイベントも実施しており、世代を超えたつながりを築く機会にもなっています。今後も、在学生・卒業生の皆さんが安心して医師としての道を歩んでいけるよう、切れ目のない支援を続けてまいります。



令和7年度 医学部行事予定表

9月

1日(月)～5日(金)	医学部4年次 進級判定試験
10日(水)	CBT追再試験
15日(月)	臨床実習前OSCE追再試験
24日(水)	医学部3年次 後期授業開始 医学部3年次 後期オリエンテーション

10月

4日(土)	二松会総会 在学生保護者教育懇談会(仙台) 白衣授与式
10日(金)	大学祭(11日(土)準備日)
12日(日)・13日(月)	診療科臨床実習開始 5年生MEC模擬試験
14日(火)	医学部6年次 統括講義(中間試験)
17日(金)	医学部2年次 キャリアオリエンテーション
27日(月)	医学部5年次 確認試験

11月

1日(土)	臨床実習後OSCE
28日(金)	第二期授業料等納付金納入期限

12月

4日(木)	合同慰霊祭・遺骨返還式
6日(土)・7日(日)	冬MEC模擬試験
12日(金)	統括講義(定期試験)
22日(月)～1月16日(金)	医学部1年次 後期定期試験

1月

14日(水)	医学部3年次 後期末オリエンテーション
15日(木)～22日(木)	医学部3年次 後期追・再試験
16日(金)	医学部1年次 後期末オリエンテーション
19日(月)	確認試験
21日(水)	医学部2年次 後期末オリエンテーション
23日(金)～2月19日(木)	課題研究(後期)
26日(月)～2月5日(木)	医学部1年次 後期追再試験

2月

2日(月)～18日(水)	医学部2年次 後期追・再試験
7日(土)・8日(日)	第120回医師国家試験
20日(金)	課題研究発表会見学(自由見学)
24日(火)	確認試験
24日(火)～3月4日(水)	進級判定試験

3月

6日(金)	卒業証書・学位記授与式
12日(木)	進級判定
27日(金)	春MEC模擬試験

薬学部長挨拶

薬学部長 村井 ユリ子

開学以来一貫して目指してきた「地域医療の多様な場面で活躍できる人材の育成」を、2学科でさらに魅力的に

建学の精神「われら真理の扉をひらかむ」のもと開設90年を迎えようとする薬学部は、地域に根差した医療を担う薬剤師養成と基礎及び応用生命科学研究を推進してきました。医療の高度化や少子高齢社会の進展など、大きく変化する環境に対応しつつも、我々の姿勢は一貫しています。現在は薬学科と生命薬科学科の2学科体制で、高いコミュニケーション能力と自己研鑽能力を備え医療や生命科学の多様な分野で活躍できる人材の育成を目指しています。医薬連携学修、人型シミュレータを用いた学修、インターンシップや本学出身者を迎えたキャリア支援プログラムなど、本学ならではの強みを活かし、学生一人ひとりが興味を持って臨める主体的な学びの場を提供します。

第110回薬剤師国家試験結果

第110回薬剤師国家試験が令和7年2月22日(土)、23日(日)の両日全国9地区を会場として実施され、3月25日(火)に厚生労働省より結果が発表されました。本学の新卒は225名が受験し192名が合格、合格率は85.33%でした。

今年度も国家試験対策として次のような補講や演習を実施する予定です。

①基礎学力演習:4月15日(火)～6月26日(木)(41日間)

②国試対策特別補講Ⅰ:10月14日(火)～11月18日(火)(25日間)

③国試対策特別補講Ⅱ(希望者):2月2日(月)～2月9日(月)(6日間)

④模擬試験(第1回～第5回):4月9日(水)、8月4日(月)、5日(火)、10月2日(木)、3日(金)、11月20(木)、21日(金)、1月26(月)、27日(火)

令和6年度薬学部ベストティーチャー賞・グッドティーチャー賞受賞者決定

薬学部では教育の質の更なる向上を目指し、学生の授業アンケートで高評価を受けた教員へ、ベストティーチャー賞・グッドティーチャー賞を授与する制度を設けています。

令和6年度は、令和7年5月26日(月)に表彰式及び受賞報告会が行われました。



[薬学科]	●ベストティーチャー賞	「総合科目」菅原 美佳、「基礎薬学科目」渡辺 千寿子、「医療薬学・専門選択科目」木皿 重樹
	●グッドティーチャー賞	「総合科目」野中 泉、「基礎薬学科目」渡邊 一弘、「医療薬学・専門選択科目」渡邊 卓嗣
[生命薬科学科]	●ベストティーチャー賞	「総合科目」吉村 明、「基礎薬学科目」山崎 寛之、「医療薬学・専門選択科目」名取 良浩
	●グッドティーチャー賞	「総合科目」森本 幸子、「基礎薬学科目」八百板 康範、「医療薬学・専門選択科目」八百板 富紀枝

※敬称略

薬学科 白衣授与式

令和7年2月12日(水)、薬学科新5年次生を対象に白衣授与式を開催しました。この式典は本学の学生が臨床実習に就くに当たり、薬剤師を目指す者としての自覚を促すものです。実習生代表2名の学生宣誓では、「臨床の場でしか得ることのできない経験を積み重ね、自分たちの目指す薬剤師像に近づけるよう、精一杯実務実習に取り組みたい」「実臨床の場で学ぶ機会を与えられたことに感謝し、常に謙虚な気持ちを持って実習に臨みたい」と決意表明がありました。



区分	新卒			6年制既卒		
	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率
本学	225	192	85.33%	135	75	55.56%
私立大学	7,164	6,045	84.38%	4,923	2,156	43.79%
全大学(国公私立)	8,061	6,849	84.96%	5,039	2,214	43.94%

区分	その他(旧4年制卒)			総計		
	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率
本学	2	1	50.00%	362	268	74.03%
私立大学	101	28	27.72%	12,188	8,229	67.52%
全大学(国公私立)	210	101	48.10%	13,310	9,164	68.85%

FD講演会の実施について

「アメリカにおける薬学教育および入学者確保のための施策」

薬学部では令和7年3月14日(金)、FD講演会を開催いたしました。本講演会では、ノースイーストオハイオ医科大学の藤原亮一先生をお招きし、「アメリカにおける薬学教育および入学者確保のための施策」をテーマにご講演いただきました。米国における臨床教育や実務実習の現状、学生募集の工夫、さらには教員の役割にまで言及された内容は、今後の教育改善に多くの示唆を与えるものでした。参加した教員からは、実務実習の更なる充実や教育方針の再考に役立つ貴重な機会であったとの声が多く寄せられ、活発な質疑応答も交わされるなど、盛会のうちに終了いたしました。



実務実習について

薬学科の5年次は各々11週間(計22週間)の薬局実習と病院実習があります。その前年にあたる4年次は薬剤師業務に関連した20科目以上の講義と5週間の実務模擬実習を修了し、年末には知識習得度試験であるCBTと薬剤師業務の実技試験であるOSCEをパスする必要があります。5年次は実務実習で長期間大学キャンパスを離れることになりますが、その間、大学教員は、WEBツールを用いて個別に実習生の進捗状況を見守っています。また、薬局実習・病院実習の各々2回(計4回)、実習施設に訪問し、指導薬剤師ならびに実習生と面談し、実習中の悩みごとやその他の実習中のトラブルの早期発見と迅速な対応に努めています。

生命薬科学科卒業研究発表会

生命薬科学科4年次29名による、卒業研究発表会が去る2月4日(火)に本学中央棟にて行われました。卒業研究は3年次後期から4年次においての約1年半の研究成果をまとめたもので、発表は一人ずつパワーポイントによる口頭発表を行います。当日の発表の際には多くの教員、学生が集まり、活発な質疑応答が行われました。学生は、本発表会において出た意見、質問等を踏まえて論文を完成させ、期日までに提出しました。



進級基準

薬学部の進級判定基準については二次元コードからご覧いただくことができます。なお、進級基準は入学年度によって異なりますのでご注意ください。各規則の詳細は学生本人に配布している学生便覧をご確認ください。



進級基準

令和7年度 薬学部行事予定表

9月	
4日(木)、5日(金)	C B T体験受験
8日(月)	後期授業開始
22日(月)	後期オリエンテーション

10月	
2日(木)、3日(金)	薬学科6年次 第3回模擬試験
4日(土)～	薬学科6年次 模擬試験弱点補講(オンデマンド配信)
4日(土)	在学生保護者教育懇談会(仙台) 二松会総会(予定)
12日(日)、13日(月)	大学祭
14日(火)～11月18日(火)	薬学科6年次 国試対策特別補講Ⅰ

11月	
6日(木)	薬学科5年次 対面確認試験
8日(土)	薬学科1・2年次、生命薬科学科1・2年次中間試験
17日(月)～2月8日(日)	薬学科5年次 4期実務実習
20日(木)、21日(金)	薬学科6年次 第4回模擬試験
22日(土)～	薬学科6年次 模擬試験弱点補講(オンデマンド配信)
28日(金)	第二期授業料等納付金納入期限

12月	
6日(土)、7日(日)	薬学科4年次 薬学共用試験(O S C E)
18日(木)	後期授業終了

1月	
6日(火)、7日(水)	薬学科4年次 薬学共用試験(C B T)
7日(水)～20日(火)	後期定期試験(薬学科4年次は8日(木)～19日(月))
26日(月)、27日(火)	薬学科6年次 第5回模擬試験
28日(水)～	薬学科6年次 模擬試験弱点補講(オンデマンド配信)
29日(木)	後期試験成績Web公開(薬学科4年次は27日(火))
29日(木)、30日(金)	成績評価確認期間(薬学科4年次は27日(火)、28日(水))

2月	
3日(火)～10日(火)	後期追・再試験(薬学科4年次のみ)
4日(水)～13日(金)	後期追・再試験(薬学科4年次以外)
18日(水)	薬学科4年次薬学共用試験(O S C E 追・再試験)
21日(土)、22日(日)	第111回薬剤師国家試験
27日(金)	薬学科4年次薬学共用試験(C B T 追・再試験)

3月	
6日(金)	令和7年度卒業証書・学位記授与式並びに大学院学位記授与式
11日(水)	進級判定

大学院より

医学研究科長挨拶

東北の地域医療を
多方面から支える
人材を育成する

医学研究科長 神田 輝



令和5年4月に開設された大学院医学研究科は3年目を迎えています。本研究科は東北の地域医療を多方面から支える高度専門職業人・研究者の育成をめざしています。現在、合計35名の大学院生が在籍しています。医師・薬剤師・看護師・臨床工学士・管理栄養士など様々な経歴の皆さんで、自身の経験から見出した研究課題に取り組んでいる人も多くいます。

毎年2月には、「リトリート」と名付けた「大学院生による研究発表会」を開催しています。既に得られた研究成果について発表する人もいれば、今後こんなことを調べてみたいという発表をして意見を求める人もいて、内容は千差万別です。大学院開設初年度の入学生は、いよいよ学位に向けた仕事をまとめ始める時期となります。近い将来、当課程の修了者が医療スタッフとして、さらに地域の新たな研究課題を見出して解決する医学・生命科学・社会医学研究者として活躍されることを期待しています。



薬学研究科長挨拶

時代の変革に
対応・活躍できる
高度な人材の育成へ

薬学研究科長 顧 建国



大学院薬学研究科には、4年制の生命薬科学科を基盤とする「薬科学専攻」と、6年制の薬学科を基盤とする「薬学専攻」の2つの専攻があります。「薬科学専攻」では、生命薬科学科を基盤とした生命科学および創薬科学の知識・技術を融合した教育・研究を行っており、博士前期課程では2年間で修士の学位を取得することができます。博士後期課程では、3年間で博士の学位を取得することが可能です。現在、前期課程には12名、後期課程には5名が在籍しており、修了後は企業や大学などにおいて研究者として活躍することが期待されています。一方、「薬学専攻」では、高度な薬学の知識の習得に加え、研究者としての視点や洞察力を養うことを重視しており、4年間で博士の学位を取得することが可能です。現在は社会人学生を含め11名が在籍しています。令和8年4月からは、病院での薬剤師として半年間の実務研修が現在の必修科目から選択科目に変更する予定です。本専攻では、将来の社会にも活躍できる人材の育成を目指し、実践的な薬物療法・創薬に関する知識・技術の習得に力を入れています。修了者は、大学、企業、病院など多様な場で活躍しています。また、本研究科では、社会人が働きながら大学院で学べるよう、入学試験段階からさまざまな配慮や工夫を行っています。



附属病院より

教育連携センターの設立

このたび、あらたに東北医科薬科大学附属病院に教育連携センターが設立されました。医学部学生の附属病院における臨床実習、薬学部学生の附属病院における実務実習をより充実した良いものとなるよう支援してまいります。さらに、医薬連携教育を深め、視野の広い医療人の育成を図ります。また、医学部、薬学部の卒前教育に関わらず附属病院で実施される各職種の実習・研修・教育などを所掌し、附属病院で行われる教育全体を可視化することにより、医薬連携教育にとどまらず多職種連携教育の発展が期待されます。



センター長
澤田 正二郎



副センター長
岡田 浩司

【本院】吹奏楽部のミニコンサートが開かれました

令和7年5月17日(土)、本学吹奏楽部によるミニコンサートが本館1階待合ホールで開かれました。入院中の患者さんや面会にいらしたご家族の方々など多くの方が足を止めて学生たちの演奏に聴き入っていました。入院生活や日常の中で心安らぐひとときを過ごしていただけたなら幸いです。

- 【曲名】
- 笑点のテーマ
 - 松田聖子コレクション
 - 川の流れるように
 - 君をのせて
 - ジャパニーズ・グラフィティXIV
 - A・RA・SHI ~Beautiful days
 - (アンコール) 上を向いて歩こう



【若林病院】オプション検査「miSignal(マイシグナル)®」導入しました

若林病院健診センターでは、人間ドックなどのオプション検査として、尿検査のみでがん罹患リスクの判定可能な「miSignal(マイシグナル)®」の取扱いをはじめました。マイシグナル®は、尿中のマイクロRNAをAI解析することによって、「今」と「将来」のがんリスクを判定します。1回の採尿で同時に複数(対象10種類:大腸、肺、胃、すい臓、食道、乳、卵巣、腎臓、膀胱、前立腺)のがんリスクを個別に判定できます。同検査は発見が難しいすい臓がんをはじめ、いずれのがん種についても早期かつ高精度で発見することが期待できるため、急速に受検者が増加しております。主な特長として①無侵襲かつ手軽であり、特に準備なく受検可能 ②がんのステージを問わない検出性能 ③一度に複数のがんリスク判定が可能 ④高いがん検出性能 が挙げられます。人間ドックのオプション検査のほか、単体での検査も可能です。費用は、同時判定するがん種の数により45,000～63,000円(税抜)になります。お問い合わせは若林病院健診センターまで(022)236-5881。

【本院】研修医・専攻医が100名を超えました

令和7年4月に本院は約140名の新入職員を迎えました。そのうち臨床研修医は20名(うち本学出身者15名)、専攻医は46名(同26名)です。臨床研修医数は宮城県内の病院で2番目に多く、本院の研修医・専攻医の総数は100名を超えました。若いスタッフが増えており、病院全体に活気があふれています。

本院は15の基本領域で基幹施設として専門研修プログラムを整備しております。臨床研修後の専門研修、さらにその後のサブスペシャリティ領域へとシームレスなキャリアパス形成を支援しています。



【若林病院】高校生より花束寄贈いただきました

令和7年5月16日(金)、聖ウルスラ学院英智高等学校の生徒さんより、当院および当院職員の地域医療への貢献に対する感謝の気持ちを込めて、花束の寄贈を受けました。カトリック教会の伝統で、5月は4月の復活祭と春の訪れに感謝し、聖母マリアに祈りを捧げる「聖母月」とされています。同校では毎年聖母月にあたり、聖母マリアの生き方にならい、感謝と祈りの心を育む教育の一環として、日頃お世話になっている近隣の施設などにお花を贈呈(“花束のお捧げ”)されているそうです。今回は生徒代表1名と先生が来院くださり、東海林副院長へ花束贈呈と激励のお言葉を頂戴いたしました。院内各部署より多くの職員が参加し、高校生の初々しい姿とあたたかい思いに、心温まる時間をみんなで共有することができました。聖ウルスラ学院英智高等学校の皆様、どうもありがとうございました。



法人より

令和7年度事業計画

中長期計画「VISION FOR 2030」5年目となる令和6年度は、教育・研究・診療が概ね計画どおり成果を挙げることができました。令和7年度は、中長期計画第2期（令和7年度～令和11年度）が新たにスタートします。中長期計画第2期は、第1期（令和2年度～令和6年度）の点検結果や外的要因の変化を踏まえ、教職員にとってより分かりやすくなるよう、適切な見直しを行いました。変化が著しい社会の中で柔軟に対応できる人材の養成と、高度な診療を社会へ提供し、安定した財務基盤の確立を目指します。事業計画における各事業領域の重要施策の概要は以下のとおりです。

1 教育領域

医学部・薬学部との共通の課題として、教育の質の更なる向上のため、学生自らが主体的に授業へ参加するアクティブラーニングの導入科目数の増加を進めます。また、医薬連携科目を着実に実施することで、医学・薬学分野横断的な教育を充実させ、多職種と連携しながら地域医療を実践できる人材を養成します。医学部では、臨床実践能力の強化に向けたシラバス及び科目内容の見直しや、東北地域の医療を支える人材を輩出し定着できるよう教育内容の改善に取り組みます。入学前教育の実施や初年次教育の充実を図ることで、基礎医学へスムーズに移行ができるようサポートします。薬学部では、入学後に学修に専念できるよう、基礎学力と学修習慣の定着を目的とした入学前教育を実施します。また、入学時の確認試験における成績不振学生を対象とした春季補習などの新たな取り組みをはじめ、入学前から一貫した学修支援により、学力の底上げを図ります。地域支援制度入学生に対して、病院薬剤師養成のための教育モデルプランを策定します。附属病院や大学病院における臨床実習実施学生の増加を図り、実践的教育の充実に努めます。

2 研究領域

若手研究者の育成と支援のため、研究奨励セミナーを実施し、より優れた発表者への研究費の助成を行います。さらに、研究エフォートの調査を実施し、業務効率化などを通して研究時間確保のための方策を策定します。産学連携を更に強化すべく、企業治験の獲得に向けた広報活動や、分野横断的な共同研究を推進するための研究交流会などを実施します。また、将来の研究者を確保するため、大学院進学率向上を目指した広報活動や、大学院生が進路選択及び就職活動において適切な支援を受けられるよう大学院進学後のキャリア支援を強化します。

5 病院運営領域

東北医科薬科大学病院（以下「本院」）・東北医科薬科大学若林病院（以下「若林病院」）については、両病院の収支改善のためのアクションプランを遂行し、患者獲得に向けた病床配分や人員配置の見直しを進めるとともに、経営基盤の強化を目指します。また、診療科単位での収支を分析・管理できる体制の整備により、各種費用の高騰に対応するコスト管理を徹底すると共に、効率的な運営と良質な医療の提供を目指し、両病院の病院情報システムの統合により相互参照可能な仕組みを構築します。本院では、特定機能病院の承認に向けた院内体制の整備や病院機能評価受審に伴う業務調整の継続強化、若林病院では、人間ドッグや各種健康診断の受入れ体制の整備・拡充を行い、社会への貢献と収益の増加へつなげます。大学病院として、臨床研修プログラムの充実や研修医の確保、附属病院における薬学臨床実習実施学生数の増加や薬学部における地域支援制度の学生向けの卒後臨床研修プログラムを構築します。

法人の詳細情報について

本法人の詳細情報につきましては、ホームページ内の「情報公開」に掲載しておりますのでご参照ください。
<https://www.tohoku-mpu.ac.jp/about/information/>



受賞&部活動報告

学内外で活躍する学生・教員を紹介します

※学年・所属は受賞当時



医学部医学科5年の井立開さんが
第86回 日本臨床外科学会学術集会で
Student Awardを受賞



薬学部生命薬科学科2年の日下のどかさんが
日本バイオ技術教育学会(JABE)が実施する
中級バイオ技術者認定試験において成績優秀者として表彰



医学部5年の紀平怜さんが
「第37回日本放射線腫瘍学会学術大会(JASTRO 2024)」
において優秀教育演題賞を受賞



医学部医学科5年生の酒井亮太郎さんが
第99回日本病理学会東北支部学術集会において
優秀研究発表賞(学部学生部門)を受賞



薬学部生命薬科学科卒業生の西塚海翔さんが
第63回日本薬学会東北支部大会において
若手研究者発表賞を受賞



大学院薬学研究科 臨床感染症学教室 大学院生 田村友梨奈さんが
第71回日本化学療法学会東日本支部総会において
東日本支部長賞を受賞



医学部6年の今西耶月さんが「第122回日本内科学会講演会
医学生・研修医の日本内科学会ことはじめ2025大阪」において
優秀演題賞を受賞



医学部6年の酒井啓視さん、植木陽向さん、中野広大さん、西山知里さんが
第84回日本医学放射線学会総会においてExcellenceAwardを受賞



薬学部瀬尾紫さん、薬学研究科朝霧育美さん、千葉花子さん、池瑛莉奈さんが
日本薬学会第145年会において学生優秀発表賞を受賞



医学部5年松下晴菜さん、4年中村葵さん、4年服部美沙希さんが
第36回NPO法人東北内分秘研究会/第48回日本内分秘学会東北地方会において優秀発表賞(学部学生・初期研修医部門)を受賞



東北大学白菊会第48回総会が開催され、
医学部3年青柳花穂さん、田崎健人さんが
鹿野記念奨学奨励賞、医学部6年崎本有梨亜さんが笠原賞を受賞



生命薬科学科4年鈴木乃愛さん、半澤実空さんが
令和6年度薬学部生命薬科学科卒業研究優秀発表賞を受賞



医学部医療管理学科 尾形倫明 助教が
第17回日本医療・病院管理学会において学会賞(論文)を受賞



薬学部機能形態学教室 善積克講師が
「令和6年度 日本薬学会東北支部奨励賞」を受賞



東北管区警察学校より、長年にわたり特別講師として
幹部警察職員の専門的な知識向上に多大な貢献をされたとして、
医学部法医学教室 高木徹也 教授に感謝状を贈呈



医学部放射線医学教室の石川陽二郎講師が
「第37回日本放射線腫瘍学会学術大会(JASTRO2024)」
において慧眼賞を受賞



卓球部が第50回北日本医歯科学学生卓球大会において
優勝、準優勝



卓球部が2024年度東日本医歯薬学生卓球大会において
準優勝、第3位



準硬式野球部が
「令和7年度東北地区大学準硬式野球春季リーグ戦(2部)」
において準優勝



ゴルフ部の堤優志さんが
「北日本医科学学生体育大会 ゴルフ競技」において
準優勝

学生特別企画 / Special Interview

学生広報スタッフ『tmPR』が

教授陣にインタビュー！

本学の特長は医学部生・薬学部生がともに学ぶ
医薬連携科目が充実していることです。

医学部医学科1年次の『東北を学ぶ』、

薬学部薬学科1年次の『地域の医療・福祉・生活』は、
それぞれⅠ・Ⅱ・Ⅲと段階を踏みながら学修し、

最後には医学科・薬学科の学生が協働して最終成果を発表します。

今回は、最終成果への準備となるⅠ・Ⅱについて、

授業を担当する教養教育センターの家高洋教授、相澤出准教授に

学生広報スタッフ『tmPR』のメンバーがインタビューしました！

家高
洋教授

相澤
出准教授

？ 教養教育センター

教養教育センターは、8教室10名で構成され、全学1・2年生の教養科目を担当しています。医学・薬学の基礎となる数学、価値観の多様性を学ぶ哲学・法学・社会学、国際化する社会と自身を繋ぐための英語学・ドイツ語学、心身の働きを観察して可能性を広げる体育学・心理学——これらの専門分野を通して、学生一人ひとりが自身の適性を模索し、在学期間中、さらには卒業後のヴィジョンを描けるよう、多様な科目を提供しています。また、初年次教育として、新入生を対象にレポート作成やディスカッション、インタビューやフィールドワークといった、大学での学習に必要な基礎的知識・技能を指導しています。学びの転換を促し学習に対する動機付けを行うことで、新入生がスムーズに大学生活を始められるよう支援しています。

Q1 『東北を学ぶⅠ』では どのようなことを行うのですか？

家高 医学部で行う『東北を学ぶⅠ』は、東北地域の課題を調べ、その対処法について考えるという個人ワーク中心の授業です。学生は一人ひとりに担当の県が割り当てられ、その県についての課題を取り上げます。そして、地域の方々に電話やメールで調査を行ったり、参考事例を用いたりすることで、その課題の対処方法を学生自身が考案します。その後グループ内で課題と対処法について一人ずつ発表を行います。発表時間は7分程度でスライドは15枚以内に収めます。この発表会は全部で3回ありますが、グループは毎回異なる学生10人と先生1人で構成されるため、多面的にそれぞれの発表の良い点や改善点を知ることができます。



Q2 授業を通して、学生に求めることや先生が工夫されていることを教えてください。

家高 この授業を通して、学生たちは地域の方々と積極的にコミュニケーションをとってほしいと考えています。地域の方のお話はネット上に載っている内容よりもはるかに面白さがあります。調査を重ねることによって、発表がより深く、興味深いものになると思います。そのため、今年はメールの書き方や電話のかけ方について詳しく教えました。ですが、学生がどのように発表したらいのかに関しては、昨年の優秀な発表を見せるだけで具体的にはあえて教えていません。理由は学生自身で考えてもらいたいからです。それが分かっている学生の発表は良いものになっていると感じます。

Q3 『地域の医療・福祉・生活Ⅰ』では どのようなことを行うのですか？

相澤 『地域の医療・福祉・生活Ⅰ』は薬学科の学生が各自のご家族や親族の方、あるいは知人といった身近な方にインタビューを行い、地域の生活やその生活の中での困りごとについて調べ、考えてもらうことを狙いとしています。地域の「医療・福祉・生活」の中でも「生活」が一番大事だと私は考えています。地域医療の現場では入院患者さんの退院後のことも考えなければいけません。患者さんの健康の維持にとって「生活」はとても重要ですし、地域では在宅医療で患者さんを支える時代ですから、より一層「生活」を視野に入れる必要があります。そのため、座学だけでなく実際に地域の生活のリアリティに触れてもらい、地域を意識した大学での学びの導入へと繋げてほしいです。



Q4 授業を通して 学生に求めることは何ですか？

相澤 授業を通して地域を見る目を養ってもらいたいです。地域の姿は刻一刻と変化しており、その時々での地域の悩みごと、地域の姿、地域の生活に敏感であってほしいです。身近な方の話をじっくり聞き、その方が住んでいる地域の様子を観察してみると、インターネットには載っていないリアリティと問題がたくさん出てきます。このような地域の問題を実際に自分で探り当て、聞く力、見る力、調べる力を鍛えてほしいです。授業の期間は約半年と短く、出来ることは限られていますが、これらを体感し経験することが将来、患者さんや地域の方々と向き合うときに繋がればと考えています。

tmPR

学生広報スタッフ『tmPR』は、学生目線で本学の魅力を発信するボランティアチームです！今年度は医学科4名、薬学科11名、生命薬科学科3名、大学院薬学研究科1名の合計19名で構成されており、イベント班・SNS班・インタビュー班に分かれて幅広く広報活動を行っています！



Q5 『東北を学ぶⅡ』、 『地域の医療・福祉・生活Ⅱ』 ではどのようなことを行うのですか？

相澤 医学部で行う『東北を学ぶⅡ』、薬学科で行う『地域の医療・福祉・生活Ⅱ』はどちらも座学の授業となっています。社会学や民俗学、特に農村社会学をベースに置き、東北地方及び東北以外の地域の事例を紹介し、種々の地域の生活に触れることによって、その地域に暮らす人々の生活を見る“目”を養うことを目的にしています。さらに地域の生活を知ることだけに留まらず、地域の生活と医療・福祉・ケアとの関連性にもふれています。学生が卒業後関わることになる地域の暮らしと医療との接点を可視化させ、地域医療を行う際に手がかかりになる内容になるよう、授業を通して生活を見る多種多様な視点を紹介しています。

Q6 「地域の生活を見る」という中でどのような ことが大事になってくるのでしょうか？

相澤 地域生活を見るうえで重要になってくることは地域の中で生活を営む人のQOL (Quality of life) がどのように保たれているのかということです。加えてその人のQOLについて知ることは、生きがいや生活の充実感を知ることにつながっており、人々の日々の生活を支えるうえで重要なものになると考えています。さらに地域の中には歴史や風土、文化など奥行きのあるコンテキストが織りなされています。しかしそれは不動のものではなく刻一刻と変化し続けています。同様に地域での生活も地域の在り方とともに変化していきます。変化し続ける地域の姿を感じ取り、地域を見る目を養うことも重要になってくると考えています。

インタビューにご協力いただき
ありがとうございました！